

第5回 尾張北部環境組合 ごみ処理施設整備運営事業者選定委員会
議事録

日時 令和2年8月5日(水)
午後2時00分～3時30分
場所 江南市役所 3階 第3委員会室

● 出席者等

出席者：5名

No	委員	役職等	欠席
1	稲垣 隆司 委員	岐阜薬科大学 学長	
2	岩渕 準 委員	NEXPO(長久手・万博継承会) 事務局長	
3	樋口 良之 委員	国立大学法人福島大学 教育研究院 教授	
4	濱田 雅巳 委員	公益社団法人 全国都市清掃会議 技術部長	
5	矢野 和雄 委員	矢野法律事務所 弁護士	
6	富 孝史 委員	富孝史公認会計士事務所 公認会計士	欠席

1. 開会

2. 第4回委員会議事録

委員長：確認し、指摘がある場合は事務局に連絡するように。

一同：同意。

3. 議事

(1) 入札手続きの進捗状況報告

資料1、資料2、当日配付資料に基づき、事務局から説明があった。

委員：資料2のNo. 41で、煙突位置に関する質問の回答が「一つの考え」となっているが、どのような考えか。新しい提案を認めているのか、認めていないのか、抽象的なので考えを確認したい。

事務局：一つは、日影の関係があり、アセスでも確認を行っている。用地はくびれた形状をしており、日影の規制が厳しい状況にある。現在、アセスを進める中で、地元への説明で、煙突の配置イメージを示しており、できるだけ西側への配置を想定しているため、それを一つの考えにして欲しいという回答としている。一方で、西側の基準があ

るわけでもないので、要求水準未達とも言えない。その点は、対面的対話の中でも事業者には伝えている。

委員：当該グループは2案の配置を示しているが、その内の一つは北寄りとなっており。その案は望ましくないという意味か。

事務局：そのとおり。

委員長：アセスのやり直しにも繋がるので、言い切る方がよい。

事務局：もくせいグループにはアセスにもそぐわないことから、具体的に提案の配置は認められないことを個別に回答している。

委員：もくせいグループは計量棟の位置が違う。滞車スペースがない。組合が求める要求を満たしているかピントが外れていないかを確認するのが対面的対話。現在の提案では、よい評価は得られないのではないかと。対面的対話で確認しているか。

事務局：渋滞対策の点は確認している。

委員長：ヒアリングで確認するしかない。

委員：対面的対話で確認しているのであれば、それをヒアリングで確認して評価する。

委員：排水処理について、プラント排水はクローズドであるなら減温塔がないと対応できないのではないかと。まだ、概略を示したのみとの回答グループもあるので、細かく確認したわけではないとの理解でよいか。仮に、提案時に減温塔がないのであれば、本当に再利用できるのか確認する必要がある。

委員：ピットについて、シングル、ダブルはどちらでもよいのか。

事務局：どちらでもよい。

委員長：要求する条件が決まっていないものが多く、全体的に評価しにくい。それでもよい（個性、提案である）とするか、認めないかを明確にする必要がある。

委員：排ガス処理も個性でよいか。

委員長：その点も含めて提案を確認するようにする。

委員：追加2/2の資料でもくせいグループのNo. 15について、図面から高低差がわからないので質問も良く理解できず、判断できないが、今後もっと詳しい資料が出てくるのか。

委員：対面的対話を通して、見当違いな提案がでないようにしないといけない。

委員長：組合の方針を明確にしないといけない。必要であれば、追加でも回答するように。

事務局：拝承。

(2) 提案書審査方法について

資料3に基づき、事務局から説明があった。

委員長：評価方法について、ご意見を伺いたい。

委員：これまでの経験では①の事前に事務局が評価案を作成する方法を経験していない。①の方法では選定委員の存続意義がわからなくなるのではないかと心配している。今後、情報開示などがあった場合に、委員や事務局が大変になるのではないかと心配している。一方で、一般論として、専門でない領域がある委員にとっては、①の方法も有効な場合もあるが、その専門外の領域については評価しないという方法もあるのではないかと。

委員：①では事務局案に引っ張られる可能性もある。情報公開で、誤解を与えてしまうことも懸念するので、①は考えにくい。

委員：両委員の意見に賛同。個人的には専門領域ではないので、案を示していただいた方がよいが、ここまでの意見を踏まえると②が原則と考える。専門外の部分を評価したとして、見当違いな評価であれば、専門家がいる本委員会ではチェックされる仕組みと考えている。

委員：同意する。①だと事務局が誘導してしまうこともある。②で、ばらつきが生じた場合は、最後に、委員のバランスとる機会を設ける場合もある。メーカーが提案している中身の取り方が委員間で異なるのは困る。協議する機会があれば、わかってくると思うので、②でよい。

委員長：②が正論だと思うが、①がないと、評価の視点が全くわからないことがあるのではないかと。評価案がどの程度のものなのか、それに引っ張られるような細かい評価案まで作られたら意味がないが、ポイントを示す程度の評価ならよい。

委員：もし委員の評価基準が異なっていれば、事実として異なることは事務局から伝えればよい。

委員：点数ではなく、組合が要求したものからプラスの提案があるかないか、何件提案されているか程度の資料であれば、委員が評点する際の参考となる。そのような方法も考えてもらえたらと思う。

委員：各グループの特長を示してもらい、それを委員が評価するのはよい。

委員：資料3のイメージの”評価”がないのであれば問題ない。

委員長：評価までは行わず、情報が整理されていると評価・委員間の議論に入りやすい。

委員：項目ごとに横並びに整理してもらえるとやりやすい。

事務局：A3で作成する。評価方法は特長を整理することで承知しました。

委員：定量評価は、地元企業の活用、エネルギー回収率、温暖化対策の3つとなる。定量評価は事務局で整理したものを確認すればよい。他の項目は、定性評価になるので、特長のみ整理されていればよいと考える。

委員：私は全て定性評価と考えている。全部定性だが、幅があり、人によって考えも違う。定量的に見せて、定性的に評価するものもあるということ。

委員長：全部単純順位（相対評価）でよいのか。必ずしもA～Eの順位で評価でなくてもいい。例えば、A評価が複数あってもよい。

委員：各提案を並べてもらって、それを委員会での議論も含めて評価する。

委員：おそらく2炉運転を長くして売電を稼ぎましょうという提案もある。運転計画に合わせた発電機を設置する。国の基準の発電効率 19%は定格のときの効率なので、実質19%でも低負荷運転に合わせましょうという提案もある。発電効率は見かけ上の数字なので、両方みて、考え方（ノウハウの提案）を聞かないといけない。

委員長：ヒアリングで確認しないとけない。事務局の「特徴」の中に、今のようなことを書いておいていただけると議論する時にやりやすい。

事務局：拝承。

（3）今後のスケジュール（案）について

資料3（裏面）に基づき、事務局から説明があった。

委員長：ヒアリングについては、9時半集合、10時からスタート、各社1時間程度で、終了後に1時間の委員間の意見調整時間をとって、昼休憩は30～40分でよい。1時間は、ずれ込むことを想定してスケジュールを再検討して欲しい。

事務局：スケジュールを再検討する。

委員：委員への資料発送が金曜では土日使えないので、水曜ごろに発送して欲しい。

委員：事務局は、基礎審査で失格になることを心配されていると思うが、提案書が提出されたらとりあえずそのまま送付してもらえればよい。基礎審査は、事務局で並行して進めてもらい、事業者への指摘事項は事務局で整理して、修正があればそれを委員に報告してもらえればよい。

あるいは、どこかのタイミングで、委員会で提案書を確認する勉強会のような場を設ける場合もある。

委員：事前に送付してもらって、11/19（木）の委員会で確認できるとありがたい。

委員：理想は、メーカーへの指摘事項と回答を整理、提案の特長を整理したものを11/19の委員会までに提示してもらえるとありがたい。

委員長：提案書が提出されたら委員に発送、委員はそれを確認して、委員会に臨む。19日までに事務局で特長を整理したものを提示してもらい、それで議論を行う。

委員：委員会としては、ヒアリング時の質問項目を整理するので、ヒアリングまでのスケジュールを示してもらいたい。

委員長：事務局は、ヒアリングまでのスケジュールを提示するように。

事務局：拝承。

委員：提案書はデータでもらえるか。

事務局：データも提供できる。容量が大きいので、送付方法は検討する。

委員：紙媒体も郵送して欲しい。

事務局：どちらも送付する。

委員：各委員の質問を共有してもらえると注意点が分かってよい。

事務局：拝承。

(4) その他

特になし。

5. 閉会

以上